

わたしも  
知って!

# 登場 人物

画:水野浩世さん  
文:上岡亜希

※担当者からみた出演者のご紹介です。



神野知恵さん  
(かみのちえ)

国立民族学博物館機関研究員。普段は神楽や韓国の民俗芸能、農楽を研究しているのみならず、その好奇心や造詣は研究分野にとどまらない。飯泉さん(国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 日本財団助成手話言語学研究部門(SILLR))の紹介でひっぱり出された超新星。濃いアバウトメンバーに馴染むの早すぎ。あふれるコトバは正確でやさしく誠実で、かつ深い。各事業所を巡った初日はバタンキューがしたい。



仲野泰生さん  
(なかのやすお)

ギャラリー京都場館長。実はアバウトメンバーのほとんどが知り合いであることが発覚。とても人脈が広いひと。そうして関わったどの人も「仲野さんはむっちゃ優しい人で…」と口をそろえるという。様々な分野に造詣が深く、時間を超越したお話を繰り広げる奥義を持つ。つまりはお話好き。元川崎市岡本太郎美術館学芸員。



中津川浩章さん  
(なかつかわひろあき)

美術家、キュレーター、表現活動研究所ラスコー代表。根源にいたろうとしている我がファシリテーター。このたび「文化人類学」の視点を取り入れたのは彼の発言から。(冊子 about me3掲載)美術家としての作品やあまりにも多岐にわたる豊富な経験や知識はFacebookからその一部がうかがい知れることができるので要チェック。大澤さんのことをおっさんといっても、大澤さんから怒れないひと。



大澤辰男さん  
(おおさわ たつお)

株式会社ライブハウス・美術教室ライブハウス代表。美術家。一見すると作品の繊細さと本人にギャップをおぼえる人もいるようだが、やはり作品や表現はご本人から生れたもの。お料理上手で子煩悩なお父さんでもある。中津川さんのことが好き。



水野浩世さん  
(みずのひろよ)

YELLOW支援員、ビッグ・アイあーと工房の講師。アーティスト。カメノジ色が好き。学生時代落研に所属していた。利用者さん一人ひとりの意思や思いを大切に、でも、まろやかなようでいて切り込んだツッコミをいれるひと。アーティストって既存の破壊者だなあと思わせてくれることがある創造者でもある。



松田豊美さん  
(まつだ ゆみ)

アトリエ ペンライズ支援員。画家。画家としての作品は「見たひとが元気になるような」ファインアート。ペンライズにはセラピーキャットのヒメちゃんがいる。ヒメちゃんのモフモフに癒されるが松田さんの包容力にも癒される。ペンライズの利用者さんの近況を伺ういつも癒されて「わたしも仕事がんばろう!」ってなる。



大西雅子さん  
(おほいし まさこ)

社会福祉法人ふたかみ福祉会ハピバル支援員。出会ったとき年齢がわからなかった(年下だと思っていた)その2。見学にいて、突然アバウトミーに参加しませんか?と聞いてすぐに「はい」と承諾してくださった反射神経を持つ。「福祉ってしんどいことばかりじゃないし、楽しいこともあるんですよ」と、こんな美人さんから言われるとさらに破壊力が増しますよ…。けっこうな頻度で、本質をあらわすズバツとした一言を放つ。



河崎愛美さん  
(かわさき あいみ)

社会福祉法人ふたかみ福祉会ハピバル支援員。出会ったとき年齢がわからなかった(年下だと思っていた)その1。天然にみえる。いや、たぶんきっとそう。なかま(ハピバルの利用者さん)への視線はすみきっていて穏やかで細やかで優しい。本当の意味で「寄り添う」という言葉がしっくりくるひと。今回はお休み。



鳥居隆史さん  
(とりいたかし)

NPO法人ホットと支援員で、数々のホットと企画の仕掛人で併設してあるグッズ販売(地域のデザイナーさんとコラボもあり)雑貨屋Fuyunire(ふゆにれ)のボス。「好きなんですよ」と彼が熱く語る画伯たち(ホットの利用者さん)による作品は熱を帯びたまま収集され1軒の平屋につまっている。ここで作品についての会議をするときはいろんな意味でいつもあつい。ホットの支援員さんのほとんどは、ぜったいHOTだと主張したい。



中島慎也さん  
(なかしましんや)

今年のゲスト事業所の京都市ふしみ学園アトリエやつほ!!(京都府)支援員。当初、電話で依頼のやりとりをしていてわたし(担当)は年下だと思っていた。が、そんなことなかったその3。お声もノリも良い人生のベテラン。中島さんをはじめ、やつほ!!の皆さんが想定していた人とは違う利用者さんが出展者となってなんとなくバタバタした空気を感じた…アバウトミーあるある。ちなみにわたし(担当)は何気にとやつほ!!の「う」(小さい「う」)の表記を間違えてしまわないか、ドキドキしている。間違ったらどうなるだろう…。



小森利絵さん  
(こもり え)

アバウトミー取材、記録、冊子編集担当。えんを描く主催でライターでもある。シャッターチャンスを見逃さない。思いや想いをくみ取った記事により、もはやabout meの諸々や冊子は彼女抜きでは成り立たない。担当はよく「助けてこもりん」と電話をかけており、いつか「うざいねん」と電話を不通にされるのではないかとと思っている。その鋭い取材力からたまにビターなセリフも。甘いだけではなく、さすが。



鈴木京子  
(すずき きょうこ)

この事業のプロデューサー。性格は乙女そのもの。肉体改造に励んでいる。わたし(担当)の上司。あながたね、ちょっとお声を小さくさせて(セレブ風のおばさま)」と注意をされた。星野源と綾野剛の顔の違いがあまりわからないといった掲載)から着想を得て、このアバウトミー企画がはじまった。



上岡  
(かみおか)

アバウトミーの事業の担当者。主に制作。よく食べるが燃費が悪い。にわかで浅いオタク。耳が遠くて声がかい。この前、電車で「あなたね、ちょっとお声を小さくさせて(セレブ風のおばさま)」と注意をされた。星野源と綾野剛の顔の違いがあまりわからないといった職場でざわざわしたことに驚いている。